



スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を



日本自立生活センター自立支援事業所 2018年12月27日発行 第93号

本年も宜しくお願ひ致します。

日本自立生活センター自立支援事業所が「重度障害者の自立生活を応援すること」だけを目的に、たった10数人のスタッフで発足してから16年目を迎えました。

大きなハンディをもって生まれてから長い年月、自宅や施設の中で、見る、話す、聞く、学ぶ、動くことなどの自由を奪われ、「人」が生きることにとって極めて重要な「喜怒哀楽」という感情までも奪われてきた人々（私たち）。

たったひと言の「こんにちは」も話す相手がいない、聞く相手もない。美しい自然、美味しい食べ物、感情を表現する歌（音楽）や演劇、さまざまな人たちの存在なども知らされないまま、生涯を終えていく人たちの何と多いことか。

昨年11月に74歳を迎えた私は、今、加速度的な「老い」を迎えています。

もちろん、赤ちゃんから若者まで、若者から壮年まで、誰にも公平に老いはやってきます。ただ、私が京都へ来た頃の42歳で感じた1年間の老いと、70歳を越えた今の老いの速さと質の違いはあまりに大きなものなのです。

世の中には、老いて益々元気な方がたくさんおられることは言うまでもありませんが、残念ながらそこに障害者の姿は余り見られないのです。

私たちの事業所に関わるご縁のあった障害当事者の皆さんも、介助者の皆さんも、あらゆる事務を引き受けて下さる皆さんも、

私たちの事業所は、現代社会の「偏見と差別」を基に奪われた人間としての尊厳を自覚し、一日でも早く、少しでも多く取り戻すための職場であり、障害当事者が地域社会の中で進める自立生活を応援する職場です。

新しい年2019が、災害の少ない年でありますように、人間同士のコミュニケーションが心豊かでありますように。等しく迎える老いのスピードに負けない元気な年、楽しみを共有出来る年でありますように。

日本自立生活センター自立支援事業所 理事長 矢吹文敏

日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当:岡山・橋口

TEL: 075-682-7950 E-mail: jcil-kyoto@jcil.jp URL: <http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>

よろしく

日時:2019年1月17日(木)

会場:メルパルク京都

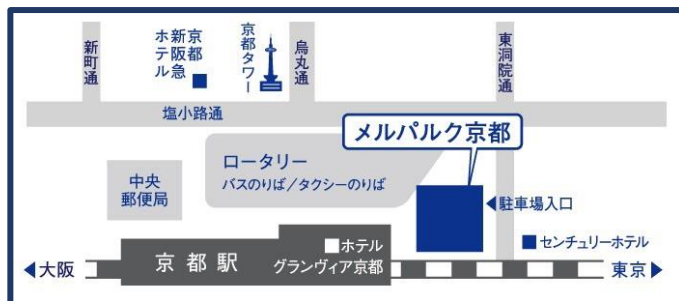
2019年

※時間や会場名、参加費など詳細は未定です。
決まり次第ご連絡いたします。

みんなの新年会

2019年もよろしくお祈いします、とのことで
一緒に食事とお酒を囲んで、交流しましょう!

JCIL 本体、ワークス共同作業所、自立支援事業所、
コミュニティサロン・ファーストステップの合同企画です。
自立支援事業所の利用者・介助者のみなさんも一緒に楽しみましょう!



こころとからだをすっきり! ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか? ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふうに動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。もちろん腰痛予防にもいいですよ! ぜひ参加してみてください♪ 講師は石田久美さんです。

- ★ヨ ガ: 全身をうごかすヨガ
- 日時: 1月21日(月)
17:00-18:15 (OPEN16:45)
- 場所: 油小路事務所2F
- 持ち物: 動きやすい服装・タオル・飲み物
- 参加費: 無料



*このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。

小松食堂

一月の献立

二一日(月)

お好み焼き

焼きそば

どなたでも参加できます。
場所は「松の間」
いずれも一七時から
参加費 三〇〇円

速報

12月24日に

筋ジストロフィー・クリスマス・シンポジウム
が開催されました！

くわしい開催報告は次号に！

植田健夫さん(43)は京都府舞鶴市生まれ。亀岡市に転居した少年時代に筋ジスを発症。人工呼吸器を使い始めるようになり、25歳で宇多野病院の筋ジス病棟に入院した。消灯時間も入浴回数も決まっている病院の生活。外出のみならず、院内を車いすで散歩するにも、ベッドからの移乗を忙しい看護師と調整しなくてはならない。(…)

植田さんはこう願う。

「病院の厳重な管理体制はぼくの命の安全を守ってくれた。でも何かがかみ合わず、ぼくは自由とは言えなかった。でも今回は、主治医や病棟を含め理解ある人たちに出会えた。これから全国の病院から筋ジストロフィーの人たちがどんどん退院するかもしれない。病院はぼくたちにとっての牢獄ではなく、安全な出入り口であってほしい」

(京都新聞 2018年12月16日付「入院17年 人工呼吸器の筋ジス男性が京都で自立一人暮らし」より)

宇多野病院の梶龍児(りゅうじ)院長らを交えた質疑応答で、「なぜ安全管理が必要なのか」との質問に、梶院長は「責任を負いたくないという医療者側の保身があった。患者さんの自己決定が最優先されるべきだ」と強調し、自立生活への移行に前向きな姿勢を見せた。

シンポは日本自立生活センター(南区)などで行う実行委員会の主催で、市民ら約130人が聞き入った。

(京都新聞 2018年12月24日付「筋ジストロフィー患者の自立生活考える 病院と映像つなぎ議論」より)

第6回 共に安心して暮らせる 京都デザインフォーラム さまざまなバリアをこえて 共に生きる社会をめざして

障害を持つ人や、さまざまな立場の人とともに、バリアをこえて共に生きることができる社会づくりについて、みんなで考えるイベントが開かれます。

*日時：2019年1月27日(日) 12:50~16:30 (開場 12:00)

*会場：「故郷の家」雲史ホール (京都市南区東九条南松ノ木町 47)

地下鉄：九条駅徒歩 15 分、市バス：九条河原町徒歩 10 分

※駐車場はありませんのでご注意ください。近辺にコインパーキングはあります。

*参加費：500円 (資料代)

※手話通訳・要約筆記・点字資料の必要な方は 1月17日までに下記へ。

*主催：障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会

(事務局：日本自立生活センター気付

TEL: 075-671-8484 FAX: 075-671-8418 E-mail: jcil@cream.plala.or.jp)

社会福祉法人京都府社会福祉協議会

*後援：京都府・京都市・京都新聞社会福祉事業団・NHK京都放送局

*プログラム

12:50 開会 あいさつなど

13:00 落語家 桂福点氏「障害を表現しながら共に生きる」

14:10 木津川ダルク代表 加藤武士氏「ダルクの活動を通して地域社会のつながりについて考える」

14:40 コメンテーター 牧口一二氏「地域社会がつながっていくキーワードを見つけたい」

15:00 休憩と移動

15:15 グループに分かれて話し合い (それぞれの立場から地域社会のつながりについて)

16:30 閉会

*プロフィール

<桂 福点 (かつらふくてん) 氏>

上方落語協会会員。先天性緑内障のため視力を失う。音楽療法士として診療所、作業所等でユニークな音楽療法もおこなう。また「一般社団法人お気楽島」理事長として、大阪市東淀川区淡路に生活介護施設「お気楽島」を開設、社会に出て行きづらい方々の集いの場・創作の場として利用してもらっている。バリバラなど TV 出演多数。

<加藤 武士氏>

特定非営利活動法人 アジア太平洋地域アディクション研究所 (NPO 法人アパリ) が運営する木津川ダルク (Drug Addiction Rehabilitation Center) 代表。「ダルク」は薬物依存症者の当事者が当事者を支援する施設。

<牧口 一二氏>

1才の頃ポリオにかかり「障害者」の資格を得る。6才の春、母におぶわれて小学校に出向くが、「空襲の時に危険」と入学を断られる。敗戦後、また母におぶわれて学校に行くと「お待たせしました」と3年遅れの1年生。高校を卒業後、大阪美術学校 (大阪芸大の前身) デザイン科を卒業するも就職できず、2年間の精神的孤立状態。美校を卒業後4年で学友が共同経営のデザイン会社を設立。その会社に転がり込む (やっと 26才にて社会へ)。この体験から仕事の傍ら障害者運動に参加。駅にエレベーターの設置要求などバリアフリーを広げる。